

Web ページを対象とした調査・収集活動において関心と関心度を同時にマーキングし目的に応じて視覚化を支援するサービス

梅本 将太[†] 横山 誠[‡] 村上 貴彦[‡] 寺岡 丈博[†] 上林 憲行[†]
 東京工科大学[†] 東京工科大学大学院[‡]

1. はじめに

大学生が就職活動で最も重要な能力として「企業を選ぶ力」がある。企業を選ぶ力は企業研究を行うことで養われるが、調査開始の時点で複数の企業を比較検討する評価項目や尺度が決まっていないことが多い。また、企業研究を一気通貫してサポートするツールが無くソーシャルブックマークなどでは、部分的なサポートしか行えない。本研究では、最初は漠然とした希望や興味先行で企業の将来性や自分の就活についての考えが定まっていない就活大学生が、企業の良し悪しの評価方法を学習して段階的に志望企業を選択できる支援サービス(evaScale サービス)の開発・実験を行った。

2. サービスデザイン

2.1 evaScale サービスが想定する調査プロセス

カスタマージャーニーマップを用いて企業研究の調査段階を図式化した(図1参照)。

- 1) 興味・関心のある企業を evaScaler(興味)でマーキングを行い、漠然とした指標として良い企業の観点や自分のこだわる視点を決める。
- 2) evaScaler(興味)でマーキングした企業を見返し、作成した evaScaler(成長性)を重ねてマーキングを行い、評価データを収集する。
- 3) 収集した評価データをさらに具体化した評価指標 evaScaler(売上高成長率)でマーキングを行い、評価データを精査する。
- 4) スケールを用いて evaScaler(売上高成長率)がマーキングされた企業をユーザーの指標でマーキングし定量化する。
- 5) ある段階で積み重なった評価データを複数の評価指標とスケールに基づきマッピングを行う。
- 6) マッピングを比較・検討し評価の修正や調査の過不足を再調査する。
- 7) 再修正されたマッピングデータを比較し目的の志望企業を決定する。

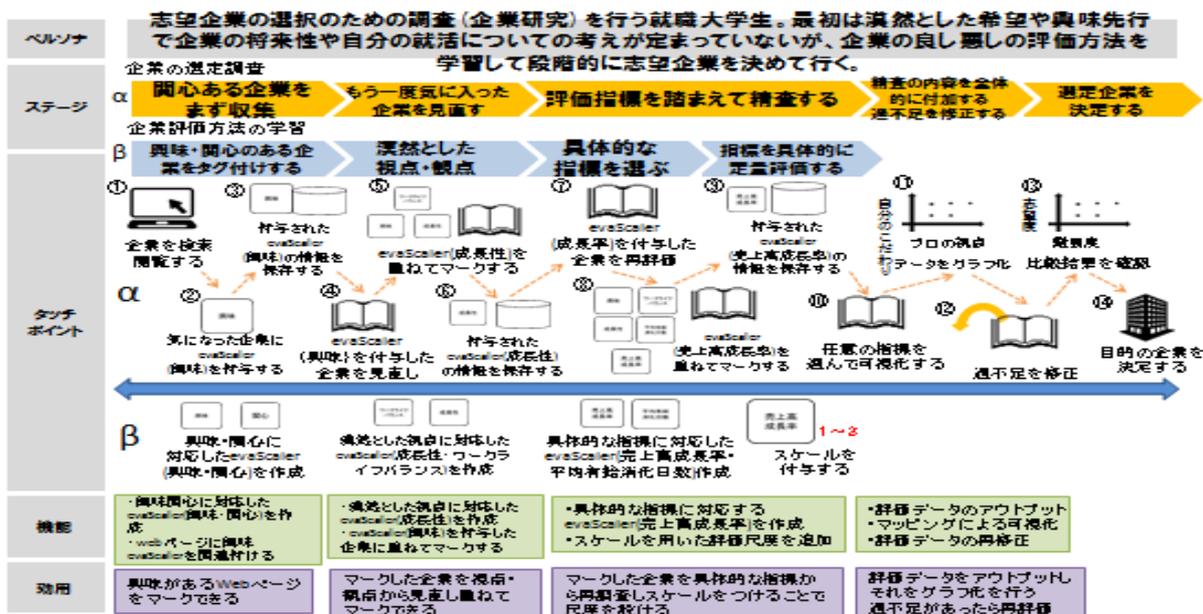


図1 evaScale サービスのカスタマージャーニーマップ

Visualization service to support survey based on web resources with stamp marking degree of interest.

†SYOTA UMEMOTO, ‡YOKOYAMA MAKOTO, ‡TAKAHIKO MURAKAMI, †TAKEHIRO TERAOKA, †NORIYUKI KAMIBAYASHI,
 †Tokyo University of Technology, ‡Tokyo University of Technology Graduate School,

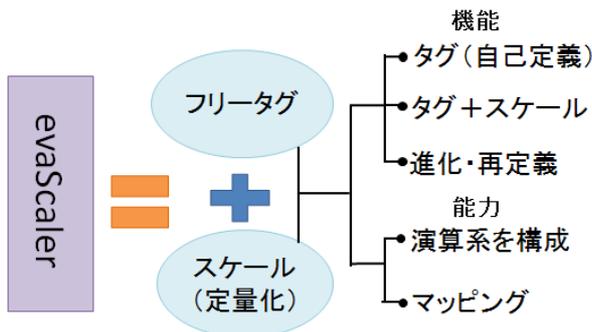


図2 evaScaler の機能と能力

2.2 evaScaler

evaScaler とは、フリータグにスケール(定量化)を持たせたものである。これは以下の3つの機能を持つ(図2 参照)。

- 1) 自己定義した評価指標を対象の web ページにマーキングできる。
- 2) 自己定義した評価指標にスケールを持たせ調査者の評価指標を定量化し web ページにマーキングする。
- 3) 一度自己定義した評価指標をより具体的な指標へ進化できる、また何度でも評価指標を再定義することができる。

これらの機能を用いることで評価結果を演算処理することができ、目的に合わせて任意の評価指標を取り出すことでマッピングを行いユーザーにフィードバックする。

3. プロトタイプ

evaScale サービスの開発を行うにあたり、Frontend として使用する PC に調査対象となる Web ページを表示する GoogleChrome ブラウザ、evaScale サービスを使用するための evaScale サービスのライブラリ、evaScaler のデータを演算しマッピングする Excel がインストールされた状態であること、また Backend として評価指標である evaScaler とスケールを保存するデータベースを用いて開発を行った(図3 参照)。

(1) evaScaler の作成

評価指標を evaScaler で作成するため GoogleChrome から evaScale サービスを開き evaScaler を作成する。作成時には、画像1枚とスケールの範囲を設定し保存を行う。作成された evaScaler は、評価指標としてデータベースに保存される。

(2) 企業の Web ページの評価

企業を閲覧するためにブラウザで Web ページを検索し閲覧を行う。興味を持ったら evaScale サービスを使い evaScaler でマーキングを行う。マーキングを行うと保存した evaScaler の画像がデータベースから取り出され Web ページに貼

り付けられる。データベースには、マーキングした Web ページのタイトルと URL、また evaScaler の評価指標とスケールのデータが保存される。

(3) 評価データのマッピング

最後に evaScale サービスを使用して評価した evaScaler を任意で選ぶ。選ばれた evaScaler の評価データは、Excel に貼り付けられ演算処理を行いマッピングされ、マッピングデータをユーザーにフィードバックする。

4. ユーザー利用実験

就職活動中の17名の3年生に3業界×10社の企業研究の課題を4回課した。今回の実験は、4回目に行い実験機関は、11月21日から12月9日の18日間を使って行った。実験の準備として各自のノートパソコンに GoogleChrome と evaScale サービスのインストールを行ってもらった。プロトタイプは、拡張機能用にプログラムファイルのパッケージ化を行い、プロトタイプ用にカスタマイズした Excel と共に Google ドライブにアップロードし実験対象者にダウンロードしてもらった。実験終了後1回目から4回目までの発表資料の提出をしてもらい、各所要時間と事前に関心度を設けることで評価基準を曖昧にせず評価を行えたかをアンケートで回答してもらった結果、EvaScaler を用いた評価方法は有効であったことが示唆された。

5. おわりに

本研究では、企業研究を段階的に行いながらスムーズに評価方法を学習し evaScaler を用いて評価指標を自己定義できる企業研究支援サービス「evaScale」の開発を行った。

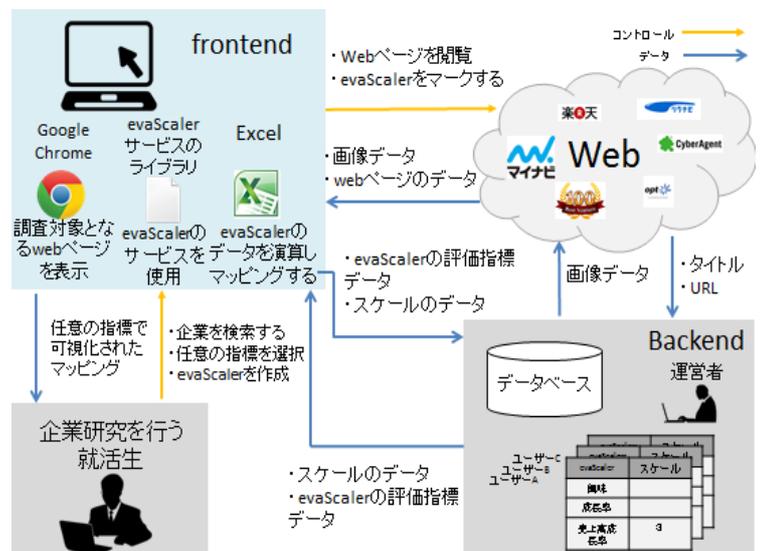


図3 evaScale サービスのプロトタイプ構成図